

小山 記者  
イチ押し



古性優作



山崎賢人

山崎賢人はビッグレースで連続優勝。サマーナイトフェスティバルの前に行われたナショナルチームの沖縄合宿では五輪戦士らと充実した練習ができた。「沖縄合宿は自分を含め男子は4人。3人(新田、脇本、深谷)とも自分より強くて、いい練習ができた。自分(の力)を引っ張り上げてもらっている」と、脚力のアップを実感。3年前の当地オールスターではG1初出場での決勝に進出してブレイクを果たした。今年はそれ以上の成績(決勝4着)を狙う。

古性優作はタイトルに最も近い男の一人で闘争心溢れる競走に磨きがかかる。広島のプロ記念初日に見せた吉田拓矢・平原康多の関東分断から直線で突き抜けた走りは、まさに縦横無尽に大暴れのレースだった。脇本雄太がG1戦線に帰ってくる。地区の勢力図をガラリと変えるエースの復帰は勝ち上がりの連係に関わらず近畿全体に好影響を与える。脇本がG1初優勝を決めた3年前の当地オールスター。決勝で連係を外してしまった古性のリベンジが始まる。

竹内 記者  
イチ押し



野原雅也



諸橋愛

前回のサマーナイトフェスティバルでは細かいミスもありながら、諸橋愛は④②②着と一介の追い込み選手とは違うところを見せた。前の選手との息が合っていたら、最低でも2勝はマークしていたと思われるだけに、成績面だけで悲観することはない。

「オールスターまでに」日にちが空くんで、もうちょっと底上げしていきます」

今年は寛仁親王牌の舞台になるために、地元、弥彦記念がないが、例年、地元記念が行われるこの時期がピーク。配当的な妙味は少なくなってきたが外せない。

野原雅也は6月の高松宮記念杯での落車で7月地元、福井記念の欠場を余儀なくされた。決して万全ではなかったサマーナイトフェスティバルだったが、初日予選では俊敏な立ち回りから、らしさをを見せて好調の黒沢征治を下した。21歳でG1初出場となった松戸のオールスターから、7年連続のオールスター。サマーナイトフェスティバルからの上積みも見込めそうで、そろそろG1初優勝があっという間。

細川 記者  
イチ押し



菊池岳仁



黒沢征治

黒沢征治は、持ち味の地脚に加えてトップスピードも強化中で、富山記念初日に連係した山崎芳仁も絶賛するほどの機動力の持ち主。「トップ選手を参考にしたり直接アドバイスを貰ったりしてロスなく力が伝わるようにフォームを修正しています。まだ焦ってしまおうとフォームが崩れてしまってしまうので、そこが課題ですね。組み立ても考えていかなないと勝負できないと思うのでしっかりと。今年に入り全てのビッグで予選を突破しており、さらなる活躍が期待される。

早期卒業組の新鋭・菊池岳仁が輪界最高峰G1の舞台に初挑戦。6月松山G3で決勝3着に入線するなど確実にステージを上げてきた。「勝ち切れていないですけど、最近はずっと勝ち切れてきている。消極的なレースをして負けているわけではないので納得はできています。サマーナイトを見て同期の(山口)拳矢さんは凄いなって思いましたけど、自分は焦らずにやっていきたい。今の自分のレースで上でも戦っていきたく」とスタイルを崩すことなく存在感をアピール。

笠原 記者  
イチ押し



脇本勇希



渡部幸訓

脇本勇希は19年7月にデビューして2年。推薦枠でのビッグレース初出場だ。5月前橋記念ではG3初優勝。7月の地元福井記念はシリーズ3度の確定板入り。グレード戦線で存在感を高めている。「オールスターでいい走りができるように、積極的に力を出し切るレースを心掛けています」。バック数の増加に比例するように成績は上昇中だ。5度のG1タイトルを獲得している偉大な兄(雄太・94期)は東京オリンピックに出場。その直後の復帰レースになる。兄弟そろってのG1参戦で大会を盛り上げる。

渡部幸訓は04年7月のデビューから17年初めて地元のビッグレースを走る。今年は3月宇都宮でG3初制覇。5月京王閣ダービーではG1初出場を果たすなど、目覚ましい活躍を見せている。競走得点は110点を突破。この1年で追い込みとして一気にランクを上げた。地元ホームではこれまでしっかりと結果を残してきた。大一番へ、抜かりなく仕上げたい。磨きをかけた差し脚で車券に貢献する。

8/12 11R

GIRL'S KEIRIN

8/11 11R

ガールズドリームレース

児玉碧衣の闘志に火

5年連続総選挙1位の期待に児玉碧衣が応える。ガールズケイリンフェスティバルは信じられない凡走に終わったが、原点に立ち返りここまで死ぬ物狂いの練習で仕上げている。連勝街道まっしぐらの石井寛子、高木真備や五輪帰りの小林優香がいてこれまでにない厳しい戦いとなるが、勝ってフェスティバルの借りは返す。

前記の通り、石井寛と高木の充実ぶりを見張るものがある。ともに練習の裏付けがあるだけに、こども力を発揮してくる。石井寛は得意の前々戦で迫る。高木は当所と相性抜群。思い切った仕掛けができそう。

小林の今年初レースも楽しみだし、太田りゆ、荒川ひかりも感謝を胸に奮起。石井寛子は怪我の回復次第だ。



アルテミス賞レース

快速・佐藤水菜が決める

佐藤水菜の独壇場となりそう。ガールズケイリンフェスティバルでビッグ連続Vはならなかったが、連日思う通りの仕掛けで、不振だった児玉碧に代わり主役級の存在感を発揮していた。梅川風子はフェスティバルの落車で完調での出走は望めそうにないだけに、こども持ち前の快速で他を圧倒。優勝回数を伸ばす。

久米詩、山原さくらがどこまで佐藤に迫るか。特に久米は参戦メンバー最年少で伸び盛りの魅力がある。前々から自力で真つ勝負を演じる。

ハマった時の先行力が半端ない石井貴子の大駆けも。突っ張り先行で押し切った7月富山のVは見事だった。実績最上位の梶田舞、ビッグ初挑戦の高木佑真の走りも見もの。

